

ちょっと寄り道…

**謎** 安宅丸の鉄釘が作られた  
タタラ沢付近と湯川神社方面へ

安宅丸造船に使用された鉄釘の鑄造所として、記録に残る場所が、北川と弁天川の交わる松月院の葦地の上辺り。そこがタタラ沢ではないかと考えられています。



明治時代半ばに描かれた伊東の海岸  
(伊東市教育委員会蔵)

歴史浪漫 ミステリー・ウォーク

**三代将軍 徳川家光御座船**  
**安宅丸の謎を追う**

安宅丸…寛永9年(1632)徳川家光が向井将監に命じて新造させた巨大な軍船形式の御座船。同11年伊豆の伊東で完成し、同12年6月2日品川沖で家光が試乗、以来深川に繋留されて、その巨大さは日本一の御船(東海道名所記)とか、富士山と見まがうばかり(色音論)といわれ、またその豪華ぶりは日光東照宮と比肩されるほどで(元正間記)江戸名物の一つとなった。後年になってこの船の比類のない巨大豪華さが回想され、多くの記録が書かれた。

『国史大辞典』(吉川弘文館)の安宅丸の項より抜粋  
巨大御座船安宅丸はなぜ伊東で作られたのでしょうか、当時の伊東はどんな町だったのでしょうか？

**クスノキを探してみよう!**  
造船の他、樟腦の材料としても知られるクスノキは、暖地に自生するほか、古くから寺社に植えられてきました。普通高さ20メートル程度ですが、高さ50メートル以上、直径8メートルを前後になる巨木もあります。



クスノキ

安宅丸の木材は荻野家から献上…?!



奥州藤原氏の流れをくむという荻野家の守護神としてここに奉られたといわれる神社。境内にあった大クスノキが安宅丸の造船の材料に使われたという伝承がある。江戸時代には、安宅丸造船に献上されたクスノキの大きな切り株があったこともあって、かなり有名だったらしく、多くの人々がここを訪れた記録が残っています。文政7年(1824)にここを訪れた浦賀奉行小笠原長保の記述に「村里に到りて、左の方に春日の社あるを、行きて拝みつ、この社頭に安宅丸といふ御船を造らしめ給ふころ、きりたりける楠の木なん有りける。きりたりし本の幹は、十二人して抱ふと言へり。空河になりたる皮よりして、ひこばへなん四本五本生ひて、これさへ木の本二三人して抱えつべく見えて枝葉繁茂せり。げにも珍かなる物とぞ見ゆる」伊豆新聞掲載「安宅丸を追って」～伊東のもう一つの造船史～加藤清志著より



**海岸の御社**  
春日神社の祭礼時には、神輿がここへ降ります。近くには、切り出され放置されたままの築城石も。



※民家のため見学は御遠慮下さい。

**宇佐美海岸**  
「宇佐」とは長い砂浜のことで、「美」は修飾語であり、宇佐美海岸は、安宅丸造船当時、長い砂浜が続く海岸であったと想像できます。



**江戸城築城の石切り場**  
※旧街道・石切り場コース参照  
石切り場…江戸城の採石は慶長10年(1605)に始まり、寛永16年(1639)まで続きました。最盛期の慶長19年(1614)の頃は、石工やその関係者が伊東だけで1万人も入って働いていたといえます。



**道の駅・伊東マリンタウン**  
伊豆半島の玄関口・伊東市の国道135号沿いにある道の駅。伊東マリンタウンはショッピングや食事できる海の雰囲気を出した建物です。遊覧船や天然温泉のスパ施設もあります。

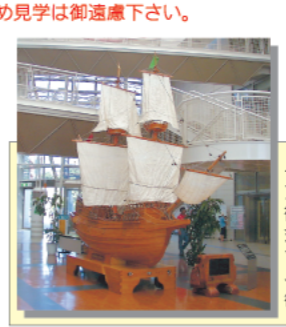


ウミウ イソヒヨドリ



ウミウ イソヒヨドリ

**荻野家**  
宇佐美初津の世襲名主の荻野家・荻野家(遠州屋)は、大名たちの石丁場の管理、人夫の斡旋、地元での資材調達を任されていました。石奉行として派遣された大名家の家臣の資料や、荻野家が石商人として変貌していく姿がいま見られる記録も残されています。



イギリス人ウィリアム・アダマス(三浦投針)は徳川家康の命により、洋式帆船2隻を松川河口で建造しました。サン・ヴェナ・ヴェンツラ号復元模型(伊東市役所)

**謎** 安宅丸の造船場所は…?!

現存する資料の中に、安宅の造船場所を特定する物はなく、伊東のどこで造られたのか？すべてが謎のままです。造船場所を選定する時の条件に当てはめ、あなたの推理を働かせてみてください。

- 造船条件① 良材が集めやすく、集積場所に困らないこと
- 造船条件② 優れた船大工がいること
- 造船条件③ 大船を洋上に押し出すのに適した地形であること



安宅丸想像図(日光東照宮蔵)

**コース案内** オレンジ色の瓦屋根の宇佐美駅をスタートします。コース全体は、『寄り道コース』を除き、ほぼ平坦。コース上数ヶ所に多目的トイレが設置されています。巨大な船の建造がなぜ伊東で行われたのか？今尚残る謎と対峙してみましょう。歴史浪漫は証明の無きまま、それぞれの胸にきらめきを残してくれるはずですよ。

